

**「きぼう」有償利用テーマ公募に向けた
今後の進め方について**

平成19年10月3日

**宇宙航空研究開発機構
有人宇宙環境利用プログラムグループ**

企画推進室長 山浦 雄一

1. 「きぼう」有償利用の目的

- 有償利用により、「きぼう」利用者の多様化・拡大を図り、「きぼう」の更なる利用を促進する。
- 利用者が利用料金を支払うことにより、「きぼう」利用成果が利用者に帰属する枠組みを構築する。

2. 「きぼう」有償利用の進め方

(1) 平成20年度及び21年度に実施の有償利用 (図1 参照)

- 「きぼう」の「有償利用」については、「きぼう」利用開始当初(平成20年6月頃)から実施するため、JAXAが早期にテーマを公募。

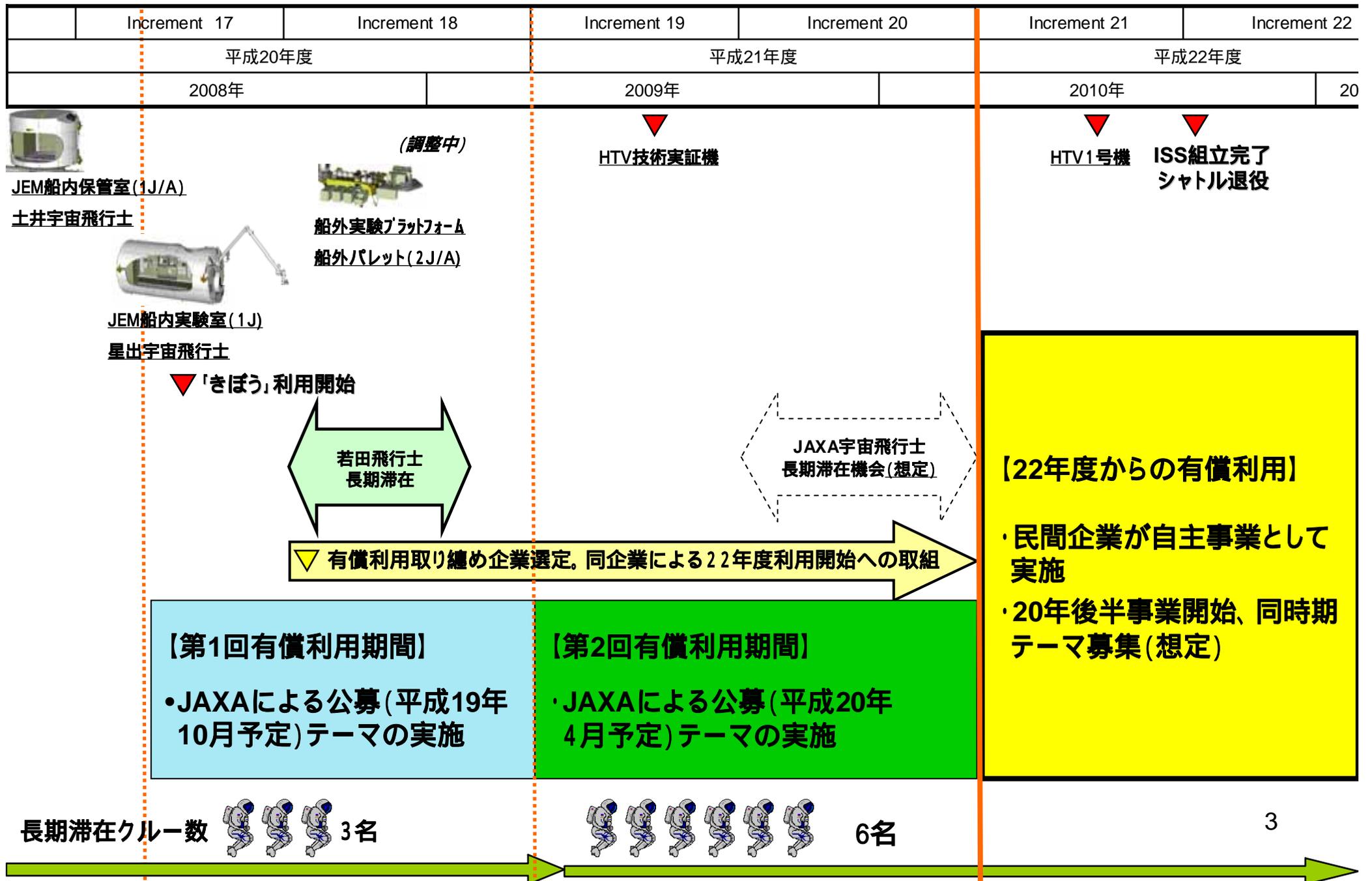
(有償利用テーマ募集時期)

- 平成20年度利用分: 平成19年11月頃(予定)
- 平成21年度利用分: 平成20年4月頃(予定)

(2) 平成22年度から実施の有償利用 (図1 参照)

- 「きぼう」利用が開始され、ISSの6人体制の実現見通しを確認出来た段階で、公募により「きぼう」有償利用取り纏め企業を選定(平成20年度後半予定)。

図1 ISS主要スケジュールと有償利用期間



3 . JAXAによる有償利用テーマ公募の概要(1)

◆有償利用の計画概要

次の2回の利用機会に対してテーマを公募する。

(1) 第1回有償利用

- 利用期間:平成20年6月～平成21年3月の間(詳細な時期はJAXAと調整)
- 宇宙飛行士の作業時間(軌道上):最大約2時間(JAXA宇宙飛行士30分程度を含む)
- 地上とISS間の物資輸送サービス:打上げ・回収各最大約2kg(*1)
- 実施場所:きぼう 与圧部内部

(2) 第2回有償利用

- 利用期間:平成21年4月～平成22年3月の間(詳細な時期はJAXAと調整)
- 宇宙飛行士の作業時間(軌道上):最大約7時間(想定値)
- 地上とISS間の物資輸送サービス:打上げ・回収各最大約15kg(想定値)(*1)
- 実施場所:きぼう 与圧部内部

- 「きぼう」に整備する次の装置が利用可能。・高精細画像ビデオカメラ ・共通実験装置(SAIBOラック、RYUTAIラック)
- 大容量映像データのリアルタイムダウンリンクは不可。

(*1)地上とISS間の物資輸送サービスについては、利用者が独自に調達することが可能。

3 . JAXAによる有償利用テーマ公募の概要(2)

◆作業分担・資金負担 (図2参照)

JAXA

利用者が必要とする利用リソースを配分。

国際取決め上JAXAの責任とされる作業(国際計画調整、安全性・搭載性審査、打上げ判断、ペイロードの実運用等)の実施。

注:ここでの「利用リソース」には、軌道上の宇宙飛行士作業時間・電力・通信・容積、打上げ・回収の質量・容積を含む。

利用者

利用リソース使用料の支払い(金額は利用者が価値判断してJAXAに提示)。

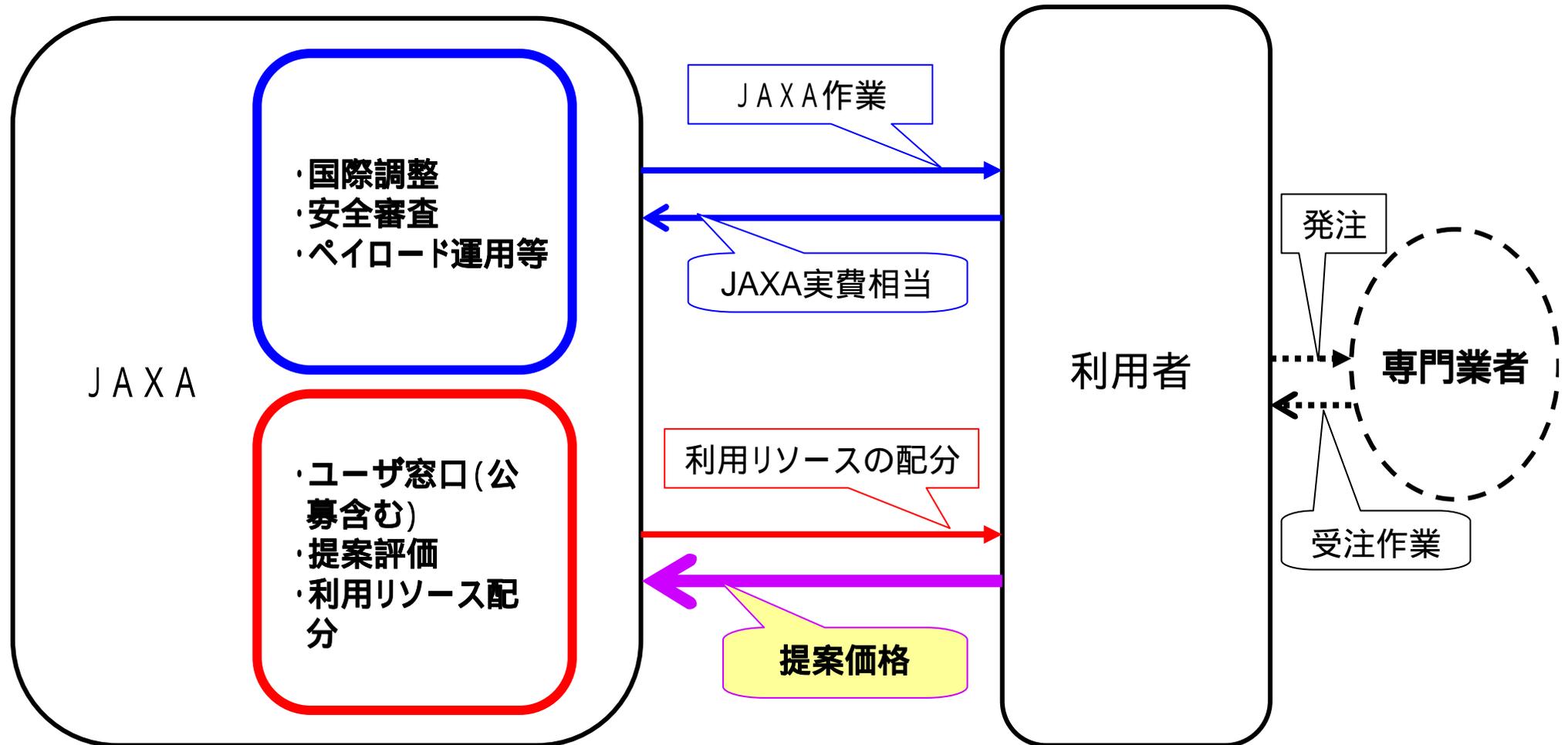
JAXAが実施する作業(JAXAの 及び)の実費相当額の支払い(JAXA見積りに拠る)。

「JAXAの 及び 」以外の作業を自己負担にて実施(利用計画の作成、利用準備等)。
但し、当該作業を専門業者に委託してもよい。

◆成果の帰属

- 成果は利用者に帰属。但し、JAXA宇宙飛行士を撮影した映像については、別途条件を設定する。
- 有償利用で撮影された映像については、JAXAは広報目的・教育目的に限り、無償で利用できるものとする。

図2 平成20年度及び21年度の有償利用の枠組み



3 . JAXAによる有償利用テーマ公募の概要(3)

◆応募資格

- 有償利用及び関連する調整を、専門業者への委託または自社事業により実施できること。
- 日本の機関、法人、団体及び日本国籍を有する者。

◆制約条件等

- きぼう、ISS、輸送機及び実施に係る全ての関連施設等を損傷する可能性がないこと。
- 公序良俗に反するものでないこと。
- ISS計画、「きぼう」及び宇宙飛行士のイメージを低下させるものでないこと。
- 当初予定された期間中に利用が実施できない場合(利用者側の事由を除く)、後続の期間中に優先的に必要な利用機会を提供。遅延に伴う利用者側の損害に対してJAXAは賠償義務を負わない。

◆JAXA宇宙飛行士の映像

- JAXA宇宙飛行士の映像撮影を可能とする。
- 撮影された映像の利用(放映等)にあたっては、その内容について事前に機構の審査を受け、了承を得ることを条件とする。
- 映像利用の期間及び回数に制限を設ける。

3 . JAXAによる有償利用テーマ公募の概要(4)

◆ 選定方法

1. 応募テーマに対する一次評価として、JAXAが下記について評価。
 - 応募資格への適合性
 - 経済的能力・実施体制・技術的実現性の観点での実施可否(準備スケジュール及び下請け業者の実施体制・技術的能力も評価対象)
 - JAXAが想定する価格への適合性。

2. 上記一次評価を通過した提案の中から、制約条件等への適合性の観点から、外部委員による選定委員会が有償利用テーマを審査。

3. 審査を通過したもののの中から提案価格によりJAXAが選定。

4 . JAXAによる有償利用テーマ公募の進め方

◆ 市場調査

公募に先立ち市場調査を実施する。潜在的な利用者のニーズ等について広く情報提供を求め、JAXAが想定している有償利用の条件等との適合性を確認し、必要に応じて条件等の見直しを行った上で公募を実施する。

情報提供依頼通知	:平成19年10月 3日(水)
説明会	:平成19年10月10日(水)
情報提供締切	:平成19年10月29日(月)正午必着

◆ 第1回公募(対象利用期間:平成20年6月頃～平成21年3月)

公募通知	:平成19年11月14日(水)
説明会	:平成19年11月19日(月)
応募締切	:平成19年12月14日(金)正午必着
利用者選定	:平成19年12月下旬以降
有償利用契約の締結	:平成20年1月(予定)

◆ 第2回公募(対象利用期間:平成21年4月～平成22年3月)

平成20年4月頃、公募通知を予定。

◆ 公募受付窓口

有人宇宙環境利用プログラムグループ 企画推進室 業務課

表1 市場調査及びテーマ公募等スケジュール

平成19年			平成20年					
10月	11月	12月	1月	2月 (1J/A)	3月	4月 (1J)	5月	6月
<p>3 10 29 市場調査にかかる情報提供受付締切(正午必着) 宇宙開発委員会報告 市場調査協力依頼発出</p>	<p>14 19 第一回公募説明会</p>	<p>12 下旬以降 利用者選定 応募締切</p>	<p>契約締結(予定)</p>			<p>第二回公募通知(予定)</p>		<p>第一回有償利用期間開始(予定)</p>

- (1) 平成18年度に「きぼう」の運用事業及び利用事業への民間活力導入(以下「民活」)への提案要請(RFP)を実施した。
運用事業については事業者を選定したが、利用サービス提供事業(「有償利用の取り纏め業務」を含めた)については、1社から提案が出されたものの、一部提案内容が適合せず該当企業無しの結果となった。(平成19年4月4日、第11回宇宙開発委員会にて報告)
- (2) 「利用サービス提供事業」の民活については、改めて平成19年度中にRFP(12月発出予定)及び事業者選定を実施し、平成20年度(4月)から契約・事業実施を行うこととしたい。これまで、平成18年度RFP結果の分析等を踏まえ、RFP範囲の見直し(図1参照)及び価格見積りの前提となる作業工数モデルの見直し(要求仕様の定量的詳細化)等の検討を進めている。
- (3) 「きぼう」の「有償利用」については、「きぼう」利用が始まる時期(平成20年6月頃)からの実施を目指し、「利用サービス提供事業」から切り離して、早急にJAXAがテーマ公募・選定を行う準備を進めている。

参考2

「きぼう」利用サービス提供事業及び有償利用取り纏め業務の体系

平成18年度のRFP範囲同一企業との契約を前提

平成18年度のRFPにおいて選定企業なし

利用サービス提供事業

有償利用取り纏め業務
(民間の自主事業)

業務内容・専門性により契約を区分

平成20年度以降の業務区分と実施主体

企業側に作業完成の責任を持たせる業務

- ・フライト実験の準備
- ・射場現地作業に関する総合調整・監督等
- ・フライト後の業務(運用後データ管理・配布等)

事業者A
19年度中にRFPで選定

専門業者との個別契約によりコスト面で効果が出る業務

- ・輸送、通関など
- ・実験テーマ固有作業など

専門業者(複数)
業務発生時に個別に選定

JAXA主体業務に対する支援業務

- ・JEM全体利用計画立案への支援
- ・国際調整業務への支援
- ・安全確認業務への支援

事業者B
19年度中にRFPで選定

平成20年度・21年度の利用

JAXA

有償利用取り纏め業務

平成22年度以降の利用

事業者C

公募により事業者選定
(平成20年度秋頃)

有償利用取り纏め業務
(民間の自主事業)